

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	在宅看護学実習における臨床判断能力育成に向けたシミュレーション試験の検討				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	加納 江理
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	富安 眞理
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸 まゆみ
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	膽畑 敦子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	榊 みのり
		所属・職名	看護学研究科・博士前期課程	氏名	黒田 沙織

講演題目	在宅看護学実習における臨床判断能力育成に向けたシミュレーション試験の検討
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【目的】</p> <p>訪問看護は看護師が原則単独で実施するため、訪問の限られた時間での情報収集、アセスメントに基づき、必要な支援をその場で提供するための臨床判断能力が求められる。社会的にニーズが高まっている新卒訪問看護師育成のためには、看護基礎教育からの臨床判断能力の習得が必要であると考えた。本研究では、在宅看護学実習における臨床判断能力の習得状況を確認するための、シミュレーション試験の内容とその方法を検討することを目的とする。</p> <p>【方法・成果】</p> <p>自宅への訪問場面を想定した臨床判断能力に関するシミュレーション試験実施に際し、主要な学習コンセプトを検討した。学習コンセプト1. 呼吸、2. コミュニケーションに焦点化し、主要な学習項目の構成と到達目標を教員間で検討した。コンセプトに基づく学習の理解を促すために、看護学部3年生12人～18人を対象とした臨床判断能力モデル（Tanner, 2006）及びとフィジカルアセスメントの講義を実習において行うこととした。</p> <p>訪問看護場面を想定した事例を用いたシミュレーション試験の実施方法は、実施時間学生1人10分間、評価者は教員2名に設定した。評価項目としては、「(利用者・家族との) コミュニケーション」、「フィジカルアセスメント」の2つの区分を設定した。試験後に行うデブリーフィングについては、試験を担当者は、コンセプトに基づく学習方法の経験を有する教員からファシリテーションについて指導を受けた。試験終了後、50分間のデブリーフィングを実習グループメンバー6人と担当教員1名で行った。デブリーフィングで学生は試験中に自身に不足していた「気づき」や「解釈」を抽出することができていた。試験後に臨床経験が豊富な教員がモデルとして実践した参考動画を学生は視聴し、コミュニケーションや情報収集のスキルを学ぶことができていた。</p> <p>看護学部3年生123名を対象としたシミュレーション試験の平均得点は6.6/10点であり、実習終了後に試験結果に基づいた評価会議を実施し、試験内容とその妥当性について検討した。臨床判断能力育成において、療養者・家族の安定した在宅生活のためには主要な学習項目である「コミュニケーション」、「フィジカルアセスメント」の2つがスキルに大きく影響することを、コンセプトに基づく学習方法から理解することができたと考える。</p> <p>【今後の展望】</p> <p>訪問看護場面を想定した臨床判断能力育成に向けたシミュレーション試験を実施することにより、在宅看護学実習における臨床判断能力の習得状況を客観的に把握することができると考える。今後は、訪問看護師の継続教育に活用し、看護基礎教育からリカレント教育へとつながる一貫した教育モデルの構築に貢献できると考える。</p>